

「Choju」だより

株式会社エース・E&L
代表取締役社長 津田 博通



【補聴器はなぜ高齢者に捨てられか】

「Choju」は、2016年11月販売開始以来、様々なお客様のご意見や困っている問題を解決すべく対応して参りました。今回は補聴器を使用してきた、高齢者が補聴器の使用をやめる問題です。

(補聴器と集音器の違い)

補聴器も集音器も、どちらも聴こえを補助するための道具です。周りの音や音声を集音してこの音を回路的に増幅して、聴こえやすくします。もとは同じものですが、補聴器は医学的に認定されたものです。集音器は単なる電気製品として扱われています。両親が高齢者になると、耳が遠くなります。そのため初めにTVの音量で家族がもめます。次第にエスカレートすると、ちょっとしたことでも言い合いになります。このため、一般的には病院に行って治療を受けると、医療機器として認定された、補聴器(デジタル機器)をあてがわれます。病院は認定された補聴器しか扱えません。「CHOJU」は、補聴器の認定を受けられますが、いつも、お客さんが使用しやすい様に、設計変更を行います。設計変更のたびに認定を申請するのは、コストがかかりますので、補聴器の認定は受けません。聴こえないで困っている方に役立つことが、最重要と考えています。

(補聴器の問題点)

補聴器には、アナログ回路で構成された商品もありますが、基本的にはデジタル回路で構成されています。このデジタル回路が曲者で、人間の耳には聴こえの良い音声を提供してくれません。デジタル音は人工音で、音声ではありません。従って聴こえたとしても、誰の声か判断がつかえません。病院の検査で聴こえましたかと言われ、聴こえましたと言って自宅に戻ります。しかし家族の声はわかりません。デジタル回路は、ON-OFFを高速で繰り返し、あだかも連続して音を発信しているようですが、人間の耳はアナログ用に出来ています。従って音が聴こえても、言葉がわからないことは、当然あります。昔、レコードやステレオで音楽を聴きましたが、自然な柔らかい音がアナログの音です。なぜ、デジタル技術で構成された補聴器が、これだけ普及したのでしょうか。

(補聴器の良いところ)

- 1、いろいろな制御技術には、デジタル回路は便利な技術です。
- 2、とりわけ半導体化など小型化に適しています。
- 3、このような特徴で、小型化できるため耳に着けても目立ちません。
- 4、補聴器は、聴こえが悪い周波数を補正することができます。

(補聴器の欠点)

しかし、便利なようなデジタル回路には、大きな欠点があります。

- 1、補聴器は、耳に合わせて金型を製作しますので、高額です。
- 2、この金型で制作した補聴器は、使用者が年々高齢化して、耳の構造が変化しますので5年くらいで作り替えが必要になり、再度多額の費用が必要になります。
- 3、補聴器の交換は、金型の再制作のみでなく、高齢化により聴こえの力が次第に低下した方は、音量の大きいタイプに変更が必要になります。
- 4、しかし、使用する電池は、小型ですので、パワーに制限があります。最後は対応できる電池がなくなり、「あなたに合う補聴器はありません」と言われて、おしまいです。

- 5、どのメーカーの補聴器も、論理的にマイクの位置が不適當です。音声を真正面から捕えられません。TVを見ると良くわかります。補聴器を使用してTVを見ると、TVの画面側からくる音声と、壁に跳ね返った音声とが重合して、わかりにくい音声になります。
- 6、デジタル音は、更に遅れが発生します。TVを見ていると、話をしている人の音声と耳にはいいてくる音声に遅れが発生し、2重に聞こえますので言葉がはっきりしません。
- 7、電池が小型のため、音量の規格 120dB の半分くらいまでしか出ません。120dB 出せる補聴器は、高額です。
- 8、小型にしているため、イヤホンとマイクの距離が近く、ハウリングが発生しやすい構造です。
- 9、補聴器は、人口音は聞こえますが、人の音声は聞こえが悪いです。ある女性が補聴器は「音は聞こえるけど、言葉がわからない」と言っていました。これは事実です。
- 10、補聴器は、寿命が2-5年です。最長でも5年たつと作り替えになります。このことは、購入するときにだれも教えません。若いときは、5年ごとに買い替えても、支払いができますが、高齢者は無理です。
- 11、市販されている補聴器は構造が複雑で、故障が多く修理代に新品を買うくらいお金がかかります。
- 12、補聴器を使っている間に、人間の聴く力が衰えていきます。この結果高齢者には、聞こえる補聴器が無くなります。補聴器には、聴く訓練で聞こえを改善する力はありません。
- 13、補聴器使用者で、ゴルフをされる方は、スイングした時、補聴器が耳から外れ紛失する事故が、結構起きています。
- 14、お風呂に入る際も、補聴器を外すことを忘れ、お湯を頭からかけて、補聴器に水が入り破損する事故も多いです。老人ホーム、介護施設では、だれの責任か、もめごとになります。
- 15、電池が、小さく交換の際落として紛失事故も多いです。

(集音器(CHOJU)の利点)

- 1、CHOJUは、アナログ回路で構成されているため、自然な音声を脳に伝えます。
- 2、脳に自然な良い音声を伝え、左右の耳の音量バランスを取り、両耳に同期した音声を供給すると、脳が活性化し聞こえを改善します。80歳、90歳代でも聞こえが戻ります。聞こえると笑顔になります。
- 3、TVの音声を聴いて訓練すると聞こえが改善されます。TVのアナウンサーは聞こえの良い発音の訓練を常に行っています。
- 4、TVで聞こえを訓練するうちに、ドラマのセリフが良く聞こえる様になります。「アイウエオ」が明確になるためです。
- 5、子供時代の中耳炎や打撲で聞こえなくなった耳も、聞こえが戻ります。皆さんが長い間聞こえない耳が聞こえて、びっくりしますが、これは事実です。
- 6、耳鳴りが改善します。これも事実です。有名な耳鳴りの先生の治療を3年間苦しい思いで治療された方の手記がありますが、「CHOJU」を耳に当てたら、一瞬にして耳鳴りが消えました。今まであった大学のお医者さんは認めませんが、これも事実の話です。
- 7、以上のことから、「CHOJU」は単なる集音器ではなく、治療器の役割をしています。
- 8、「CHOJU」は電池が単四で扱いやすく、また、音量を120dBまで出せます。
- 9、「CHOJU」を使用して、2-5年で買い替える必要はありません。このため、どこのメーカーもやっていない3年保証を行っています。
- 10、80歳代90歳代の皆さんが「CHOJU」を探しもとめて、エース・E&Lを訪れます。遠いところから車で来たり、自転車で行き来したり、時には片道45分くらいの道のりを歩いてきます。また、最近ではネットで探して、九州や新潟など遠いところからメールで問い合わせがあります。使用方法を説明すると、うまく使用できます。この方たちは、何歳になっても他人と話をして生活したいのです。聞こえが戻るとテーブルに頭をつけて営業マンに「田仲さん、あなたは神様です」と言って喜ばれます。

以上